



## サンゴぬり絵（印刷用）

### 概要

サンゴ礁に生息する「生きものの生態」や「サンゴ礁の生態系」をテーマにしたぬり絵（5種類）を、解説シートに沿って色付けしていきます。生物の色は図鑑やインターネットで調べます。各ぬり絵は2段階で完成し、段階的にぬり進めることで、さまざまな気づきが得られるように工夫されています。サンゴ礁学習の導入やまとめとして使用すると効果的です。低学年から高学年まで幅広く楽しめます。

### 学べる事

- 「共生」や「適応」などのテーマをもつ「ぬり絵」を完成させる過程で、サンゴ礁の生態系や生きものの特徴について学びます。
- 図鑑やインターネットでぬり絵をする生きものを探すことで、調べ学習につなげることができます。
- サンゴ礁の海で暮らす生物の色や模様が多種多様であることに気づきます。

### 準備するもの

- ◆ぬり絵シート…「使用する教材」からダウンロードします。
- ◆解説資料…「使用する教材」からダウンロードします。
- ◆色鉛筆…ぬり絵をするために使います。
- ◆図鑑…生きものの色を調べるときに使います。魚類・甲殻類・サンゴ礁の生きもの等、多様な図鑑を用意しましょう。
- ◆パソコン、タブレット…生きものの色を調べるときに使います。

### 実施の仕方

#### 1. ぬり絵シートを参加者に配り、説明をします。

例：「サンゴ礁の海にすむ生きものたちはとてもカラフルです。このぬり絵にはサンゴ礁の海のある一場面が描かれています。今から説明をするので、話をよく聞いて、指示に従って色をぬっていきましょう。生きものの色は図鑑やインターネットで調べましょう」

#### 2. ぬり絵を始めましょう。

指導者は、それぞれのぬり絵シートに対応した「解説資料」を参考に話をします。最初に、ぬり絵は2段階で完成することを伝えておきましょう。



◎実施場所：室内  
◎所要時間：40分～60分

#### ◆ポイント！

ぬり絵は5種類あります（海のなかよし・サンゴだいすき・かくれんぼ・ひるの海・よるの海）。それぞれテーマが異なるので、子どもたちの興味や授業内容にあったものを選んでください。

#### ◆ポイント！

図鑑の使い方やパソコンの検索の仕方を、事前に伝えておきましょう。生物の種類によって掲載されている図鑑が異なるので、対象生物が載っていることの事前確認も忘れずに！

#### ◆ポイント！

生物を調べる作業は時間がかかります。1枚の絵を2～3名で協力してぬってもいいでしょう。





例（海のなかよし）：「サンゴ礁の海のなかでは、いろいろな生きものが助け合いながら暮らしています。どのような生きものたちが、どのように助け合っているのかな。じっくりと見ていきましょう」  
「サンゴ礁の人気者、クマノミの仲間はイソギンチャクと仲良しです。クマノミ以外の生きものがイソギンチャクに触れると、毒針で刺されます。ところが、クマノミは体から特別な粘液を出しているので刺されず、敵がくるとイソギンチャクのなかに隠れて身を守ります。その代わりに、クマノミはイソギンチャクを食べにくる魚を追い払っています。オレンジと白いラインのカクレクマノミをぬりましょう」

「枝サンゴの間に隠れているのはサンゴガニの仲間です。サンゴガニはサンゴの粘液を食べさせてもらうかわりに、サンゴの天敵オニヒトデが近づくとハサミをふりかざして果敢に追い払います。赤い水玉模様のオオアカホシサンゴガニに色を付けてみましょう」

「砂地で暮らすハゼの仲間は、テッポウエビが地面に掘った穴に潜り込んで、一緒に暮らしています。その代わりに、目が悪いテッポウエビのために穴の入り口で見張りをして、敵が来ると危険を知らせてあげます。黄色い体に青い星のような点があるギンガハゼをぬりましょう」

「大きな魚をつついてるのはホンソメワケベラです。他の魚のエラや体について寄生虫を食べています。くねくねと変わった泳ぎ方をしながら他の魚に近づくのが『お掃除しますよ！』のサインです。お掃除の間、魚たちは口やエラを大きく広げて、じっと動かずにおとなしくしています。ホンソメワケベラをぬりましょう」

### 3. 途中で一度休みます。

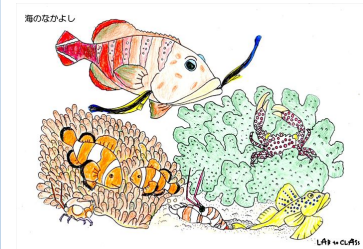
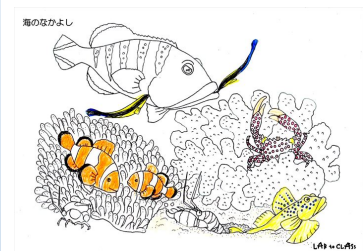
1段階目の色付けが終わったら、一度手を休めます。この時点で写真を撮るなど記録をしておく、完成した絵とあとで比較ができるので効果的です。じっくりと絵を見て、ぬり絵のテーマ（海のなかよし、昼と夜の海の違いなど）を考える時間をつくりましょう。

### 4. 2段階目の色ぬりを始めます。

例：「次に、それぞれのパートナーをぬっていきましょう。カクレクマノミは、茶色いじゅうたんのようハタゴイソギンチャク。オオアカホシサンゴガニは、もっこりとした形のハナヤサイサンゴ。ギンガハゼは、立派なハサミをもったニシキテッポウエビ。ホンソメワケベラは、大きな口のニジハタ。それぞれどのような関係なのかを思い出しながらぬってください。まわりのサンゴや海の色もぬって完成させましょう。青、紫、黄色、ピンク、茶色…カラフルなサンゴ礁に仕上げてみましょう」

◆ポイント！  
海の生きものの写真は強いストロボを使って写すことが多いため、実際に目で見たときの色と異なることがあります。写真にこだわり過ぎないように声掛けをしましょう。

◆ポイント！  
色をぬる生きものの名前を忘れないように、黒板などに書き出していきましょう。





## 5. 完成した絵を見せあい、感じたことや気づいたことを話します。

絵を並べて見せあい、参加者の感想、気づいたことなどを聞いてみましょう。

## 6. まとめの話。

例：「海のなかの生きものには、いろいろなつながりがあります。食べたり食べられたりする関係以外に、異なる種類の生きものが助け合って暮らしていることもあります(これを「共生」といいます)。このぬり絵には、このように助け合って暮らしているいくつかのペアが描かれています。自分のパートナーがいなくなると、すぐに敵に襲われて食べられてしまうこともあるのですよ。とくに、小さくて弱い生きものは“弱点をお互いにカバーして暮らす”ことが、自然のなかで生きていく知恵なのです。」

